

うなぎの養殖事業(新しい養殖システムの導入)

山本建設株式会社 代表取締役社長 山本 祐司

〒860-0082 熊本県熊本市西区池田 4-16-16

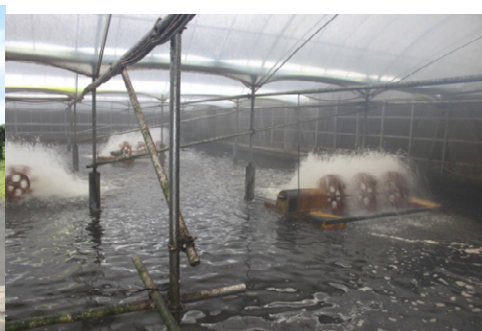
TEL 096-354-5353 <https://www.yamamoto-cc.com>

☆うなぎ養殖への取組

平成8年からの公共事業の減少を受けて、平成20年より鰻の養殖事業に乗り出し、宮崎の泥池タイプ(ブロックで囲った池)と鹿児島等のコンクリート池の2タイプの試行を、池を借りて行なった。3カ所で始めたが、一つの池では多くのうなぎが育たず半年で断念し、その他の池では採算性に問題が出た。この試行と並行して、自社養殖場の建設に向けて、色々なタイプの養殖池の調査を行い、その中で、韓国で広まり始めた液化酸素を使った循環式のタンク養殖に注目し、次のような検討を行い、建設へと踏み切る事とした。



コンクリート池の外観



池内の状況



泥池タイプ

☆うなぎ養殖施設の検討と決定(自社養殖施設の建設に向けて)

(1)建設に当たり、次の条件を元に検討を行った。

- * 将来的に管理のノウハウを蓄積し、新人でもある程度の結果が出せる。
- * 生産倍率の最終目標をシラスの1300倍とする。
- * 生産経費を低く抑える事が出来る。

(2)養殖場の建設の目的

- * 養殖を行い事業としての収益を上げる。
- * 建設や管理システムのノウハウを蓄積し、養殖施設の建設を請け負う。
- * 今後も継続して高密度の養殖を進化させ、改善を続けることができる。

上記の検討より

(3)養殖池タイプを循環式のタンク養殖に決定

- * 養殖池の管理・コントロールが容易で、生産倍率を確保出来る可能性が高い。
- * 韓国の寒冷地でも養殖が可能で、熊本の寒さの中でも養殖し易い。

* 将来の養殖技術の開発・進歩の可能性が高い。



タンク養殖場の内部

餌やり状況

選別・出荷場

☆ うなぎ養殖の現状

- (1) 現在の鰻の生産倍率は約1000倍、年間の生産量約120t、売上高約4億円である。
- (2) 鹿児島、静岡の加工場へ出荷している。

☆うなぎ養殖の問題点

- (1) シラスの確保が非常に困難。
- (2) 養殖技術は向上したが、生産性の安定の為に、育成の促進や病気対策がより必要。
- (3) 生産倍率目標 1300倍(シラス池入れ比)の目標に達していない。
- (4) 光熱費・電気代・酸素の支出が大きく、適正な対策が必要。

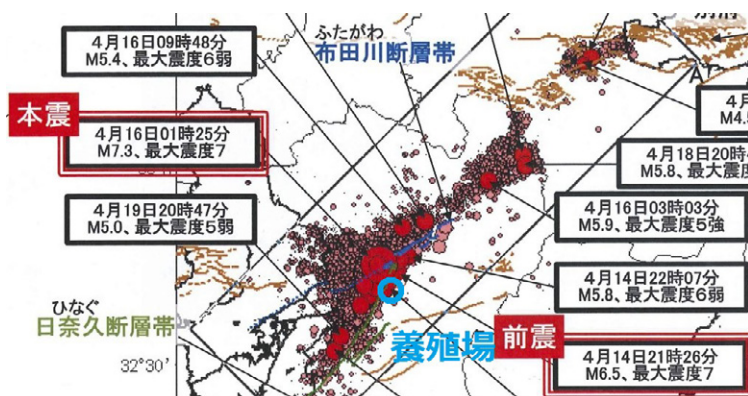
☆これからの展開

- (1) 養殖技術をより確立し、施設の能力向上も含め、生産性の向上に努める。
- (2) 色々と問題は有るが、異種鰻に付いても養殖技術の検討を進める。
- (3) 企業として、システムの販売を進めて行く。(旧施設の改良等)
- (4) 完全養殖について少しでも協力して、資源確保に貢献する。
- (5) 自社に加工場と食堂を作り、自社で養殖した鰻を食べてもらう

☆最後に、熊本地震と施設の地震対策(建設業者の立場で)

現在の養殖施設は、今回の熊本地震の震源地日奈久断層の近くに有り、地震に対してどこまで対応するのが重要な課題であった。布田川断層や日奈久断層は広い範囲に有り、その上何時発生するのかは不明である。もし地震で施設が壊れてポンプ等が稼働しない場合、15分以内にうなぎが全滅する。

本養殖施設では、建設時に、養殖濾過層コンクリートへの補強繊維の投入、埋設配管への可とう管の使用等を行っていたため、地震の被害は、10台程度のポンプの停止と扉の変形、施設のクラック等で済み、現在も養殖を続けることができている。



農業土木講演会の資料より